

あ と が き

私たちはここ2年間、研究主題を「学びの質の高まりをめざして」と設定し、子どもの学びの質を高めるための授業改革・カリキュラム改革・学校改革に取り組んできました。研究を進めるにあたっては、東京大学大学院教授 佐藤学先生の著書や雑誌に書かれたものを読み合い、私たちなりに解釈し共通理解しながら実践研究を進めて参りました。

「学び」は、対象・他者・自己との対話のうち一つも欠けることなく、三位一体の対話によってのみ成熟していくと考えています。自分は対象をどのように認識できるようになったのか、自分は他者をどのように思うようになったのか、自分がどのように変容したのかという対象・他者・自己への認識を更新することによって学びの質が高まると考えています。

学びの質の高まりに向けて、次のようなことを大切にしてきました。

まずは、「仲間と相互に学び合う温かい人間関係」や「前向きに学びに立ち向かおうとする意欲や態度」などの学習文化を育て、学ぶことのできる集団を創り上げることが基盤となります。さらに、個に応じて適切なみとりと支援を繰り返し行うことで、子どもたちの思いや願い・考えを生かして連続性のある学びを生み出していきます。

また、学習形態についても一人学習・ペア学習・グループ学習・一斉学習というものを、発達段階とその場や状況に応じて適切と思われる形態を適用しながら、少人数でのグループによる協同的な学びができるように工夫しています。

課題については、子どもの実態や場面ごとの状況を察知して、それが具体的で自然なものであるかどうかを検証しながら、学びの活動に修正を加えていきます。言い換えれば、プログラムの計画カリキュラムを、プロジェクト的な実践カリキュラムに構成し直していくことが必要だと考えています。

私たちの研究もようやく、「背伸びとジャンプ」できる学びをめざすためのグループやペアー学習、ICT 機器の活用、学習形態の工夫などが日常的になされるようになってきました。この2年間で、どの教室にも実物投影机とプロジェクターが配備され、ICT環境の整備されました。子どもがノートや鉛筆のように、ICT機器をごく普通の学習道具として上手に使い、自分の考えを説明するという姿も多く見られるようになりました。

本年度は、佐藤先生に2回お越しいただき、「新学習指導要領を超えて」～質の高い学びを創る授業改革への挑戦～という演題で、ご講演いただきました。その内容については今夏出版する本の序章に「教育改革のデザイン」としてまとめていただきました。本校のこれまでの実践と合わせてお読みいただければ幸いです。

研究会で佐藤先生に、「教室に入りやすくなったね。」というお褒めの言葉をいただきました。私たちがこれまで取り組んできたことが、子どもたちの中によりやく根付いてきたなど大変励みになっています。

また、昨年度に比べ学校全体が落ち着いてきたのは、特別支援教育の体制や考え方が浸透してきたことも大きいと思っています。学習面や生活面で気になる子どもを、担任だけでなく学校全体で連携して指導していくことが大切です。授業におけるTT指導や個別の指導はもちろんですが、休憩時間子どもがリソースルーム「たんぼぼ教室」に行ってちょっとリフレッシュするということも、子どもの心の安定に繋がりました。今後も子どもたちの人間関係や心の悩みをより敏感に捉えられるよう取り組んでいきます。また、生活面や学習面でよい習慣をしっかり身につけさせるように、きめ細かい指導を大切にしていきます。

本年度、子どもたちの「学び」を中心にすえ、試行錯誤しながら歩んできた一端が、本紀要です。本校の研究理念や歩み、さらに教員一人ひとりのこだわりや主張点を感じていただければと願います。ご一読いただきご教示いただければ幸いです。

副校長 北原博男